

茨木里山を守る会

会報
創刊号

会報発行にあたって



＝守る会活動の二つの原点＝

会員の皆さん、お元気ですか？

早いもので「守る会」も発足して5年を経過し、会員数も養成講座6期生まで百名の大所帯となり、大変喜ばしく思います。

普段の活動では、1期生の先輩方ももちろん元気一杯ですが、5期、6期の方々も大いに活躍されています。

4月の総会では、節目の5周年記念行事を行いました。5年という歳月は、特に当会のように毎年新しい仲間が加わる組織では、決して短くはないと感じています。

そのような折に、この度、会報を発行する運びとなりました。

ところで皆さんは、養成講座を終えたとき、何を感じられましたか？「守る会」に入ろうと思ったとき、何を考えましたか？わたしの場合、いまでも二つのことが強く印象に残っています。

一つは、荒れた里山の風景です。特に、竹の墓場のようになった竹林、人工林等に侵入した竹林。放置された今日の姿でした。大したことはできなくても、何とかせよやと思いました。

二つめは、ドングリです。若尾先生が炒ってくれたマテバシイの実を食べました。

田舎育ちの私ですが、恥ずかしながら、ドングリは食べられないと思いついていました。そんな話を幾つもいくつも教わりました。実に新鮮でした。そして、そのような新鮮な経験・体験を孫たちにもぜひ味わせてやりたいと思いました。

皆さんは如何だったでしょうか？

私にとって「守る会」での活動の原点はこの二点にあると思っています。

この3月、そして9月、東北と紀伊で未曾有の災害に遭遇しました。しかし、新聞やテレビの報道を通して、残された人たちはもちろんのこと、援助に携わる自衛隊やボランティアの方々への必死に努力する姿に感動と感銘を受けました。そこに人と人との間を紡ぐ「絆(きずな)」の強さをつくづくと感じました。

今回発行する会報にはまだ名前もありません。しかし、この会報が、情報の共有化や相互の親睦交流のツールとなり、ひいては、「守る会」の仲間の「絆」をより強めてくれることを願ってやみません。

(長谷川淳朗)

◆ 愛称つけて！

皆さんに親しまれる会報の愛称をつけてください。応募される場合、愛称に込めた気持ちも書き添えてください。運営委員会で集約し、候補を数点に絞り、皆さんの投票で決めたいと思います。

★応募は、運営委員まで・締切11月末日

新活動地スタート

今年度より、懸案であった新たな活動地を千塚寺自治会より提供頂けることになりました。このことは、守る会の日頃の活動を認めて頂いた賜物と、会員一同の喜ぶべきことでもあります。

新活動地は、広さ約2haで、雑木、ヒノキの人工林を含む魅力あるエリアです。

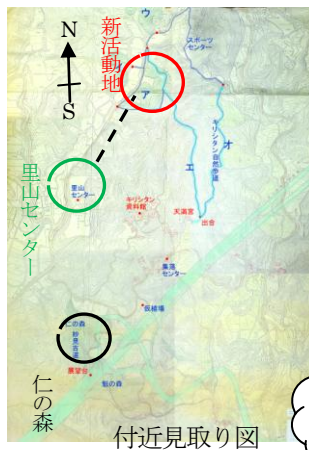
取り組むにあたっては、守る会にて培った里山への思い、保全の技術、又、今までなしえなかった新たな取り組みもチャレンジしていきます。地形・植生の調査を行い、地図を作り、計画的な里山づくりに取り組みます。

多くの方のご意見をお待ちしています。皆で新しい森づくりをしましょう。具体的には「森づくり委員会(仮称)」を設置し、企画、推進を担います。

委員募集中！ (松田輝行)



尾根筋の静かな里道



付近見取り図

下半期の活動計画

(10月～3月)

◆ 保全活動

毎月の第1土曜日、第3金曜日、第4土曜日です。今年も12月の第1土曜日は、新会員歓迎ハイク、1月の第1土曜日は、入山式と豚汁会を予定しています。

◆ 特別活動

11月1日～2日は、すでに募集を締め切りましたが、守る会初のツアーで、5周年記念行事として奥大山のトレッキングをします。



マイペースでね！

農業祭は、11月19日(土)・20日(日)です。日頃、多忙で活動に参加できない方、久しぶりの親交を楽しんでください。たくさんの方の参加をお待ちします。12月17日は餅つき大会です。ご家族連れどうぞ。

◆ ネット茨木の活動

ネット茨木の活動日は、原則、火曜日と木曜日です。

- ・ 観察林整備は、10月、11月、12月、3月の第4木曜日です。
- ・ 千提寺(裏山)整備は、11月、1月の第2火曜日です。
- ・ 桜の苑の整備は、2月の毎週火曜日の4日間です。

鉢伏山整備は、10月22日(土)です。

(松股征男)

Motto は
安全で楽し

農業祭 「山・川・海」を繋ぐ 大イベントに

守る会として、毎年秋に開催される茨木市農業祭に参加するにあたって、①守る会活動の紹介を通して、里山保全の大切さをPR②竹切り実体験による林業作業の一端を体感③里山にある自然素材を使った工作体験④自然工作品販売で会の収入補填⑤会員相互の親睦と会のPR⑥山・川・海(林業・農業・漁業)の連鎖を知ってもらうことを目的として、準備段階から実行委員会を立ち上げ、参加してきています。

準備のさくそびは

本番は、11月20日(土) 21日(日)の二日間で開催されました。本番までには9日間の準備活動を行い、延べ百十三名の会員が参加しました。この準備活動では、守る会PRパネルの製作や、自然素材を使った各種工作キットの製作、体験コーナーの竹材の切り出しや魚釣り用竹魚の製作、テントの飾り付け用ツル、山の実、紅葉したカエデなどの収集を行いました。
本番は、秋晴れの好天に恵まれ、3期会員の川瀬さん作の彫刻「ふくろう」が店頭



に飾られた守る会のテントサイトにも、大勢の親子連れが訪れて、賑やかで楽しいお祭りイベントとなりました。テントの中でペンダントやぶんぶん駒

工作を楽しむ女の子、竹ポックリの竹を一生懸命切る男の子、竹魚を釣り上げて大喜びの親子連れといった笑顔と満足感いっぱいの日でした。延べ49名の運営スタッフ(守る会店頭風景)が汗を流し、充実の二日間となりました。



- ・ 作品の製作精度を高めて売り易くしたい
- ・ 焼シイタケの実演販売できないのかな
- ・ 作品販売価格の見直しが必要ではないか
- ・ 昼食や他店を見て回る時間が短い
- ・ 体験コーナーのメニュー追加がある etc



竹切り初体験だよ!



川瀬さん作品「フクロウ」



可愛くできるかなあ!



大物釣ったぞー!

準備状況は

本番は、11月19日(土) 20日(日)に開催されます。今年には昨年の経緯を踏まえ、早めの6月末の運営委員会で農業祭実行委員会立ち上げを確認し、準備を進めています。



具体的作業は、サマータイム中の定例活動日の午後後の活用や、臨時活動日を設定して行い、9月末までに5回(第2回は台風接近で休止)の準備作業を行ってきています。

新しい作品として、竹製・木製の花置き台作りや、好評の魚釣り体験用竹魚の絵付けの工夫、既製品(竹笛・シロホン)のアレンジといった新たな試みも、活気ある雰囲気の中で進められています。(二階蔵滋)

準備も本番もあなたの出番!

みんなで楽しくやりましょう!



投稿・写真募集

里山保全活動に関連するテーマでのご意見や、写真等を募集します。どしどしお寄せ下さい。

倶楽部紹介

山菜クラブ

今年4月に山菜試食会を開催しました。千堤寺周辺に自生する山菜を採取し、天ぷらなどを楽しみました。普段、何気なく目にしている植物も、実は食べられることがわかり、驚くばかりです。



今後は、天ぷら以外にもレパートリーを増やしたいと思います。お勧めの山菜料理がありましたら、ぜひ教えてください。(林孝治)

第7期養成講座

今年度も15名の方を迎えて、6月から養成講座が開講されました。

早くも竹林整備実習を終えて、9月には自然林整備実習を体験しています。汗が気にならないくらい平均年齢も若く、元気で活発なチームワークを発揮されています。



講座生全員が無事に卒業され、茨木里山を守る会に加入されることを願っています(齋藤哲実)

魁の森と山の森の森

魁の森はまさに、当会一期生の活動のさきがけとなった森であり、妙見古道の入口付近に位置しています。

ここでは、年初に入山式を行い、一年の無事を祈る儀式を厳肅に執り行っています。

最近では、整備に入っていないため、かなり荒れた状態となっており、今年中には、何回か整備に入る予定です。

次に、**仁の森**はここ最近、我々の活動の中心となった森です。

昨秋、高槻・三島地区で我々と同じ公的森林サポーター養成講座出身者のボランティア団体の方々が見学され、妙見古道から見上げる整然と並んだエコロジーシニアに感嘆の声を上げられていました。

森林サポーター養成講座やシニア自然大学の実習の場として、実習生の思い出に残る森だと思います。

昨年、「菌の神様」からの新しい回路も完成し、通り抜け出来るようになりました。

初夏には可憐な**ササユリ**や珍しいオオバノトンボソウが花を

つけ、秋にはサルトリイバラが赤い実をつける、いい森になりました。

来年からは、新名神のインターチェンジ

工事が始まります。その人工美に仁の森が見事な自然景観をかもし出して欲しいと願っています。



(ササユリ)

(河村政彦)

里山山西斜面の現状と今後の活動

西斜面の活動は今年で三年目となり、回を重ねるごとに整備が進み、入山しやすくなっています。

車の進入路も水源地から更に奥へと開拓され、市農林課の話では、今年度末には竜王山山道につながるかと聞いています。

ここは、「茨木・ふれあいの森づくり」構想の一環であり、その一翼を担って整備を行ってきました。進入路の中間地付近からは「見山の郷」が眼下に広がる。



(見山の郷遠景)

り、昨年植樹した桜の時期には、一見の価値が期待できます。

主な活動日を第4土曜日としています。なせか雨や雪の日が多く、活動回数は少なくなっている。そんな時、7月の活動日には、犬を連れた家族連れがハイキングに訪れており、二〜三年後には多くの市民の憩いの場になると期待しています。(齋藤哲実)

◆会員のみなさんへ◆

☆ゆるキャラデザイン・愛称募集!

マスコットキャラクターを作って、保全活動の魅力を広げませんか!里ちゃん・山くんなど。愛称とデザインを募集!

里山の活動本拠地

二つある



守る会の基幹活動の一つは、千提寺地域の里山林に入って、自然林の間伐整備、すなわち、里山保全を行なうことである。

もう一つは、失われゆく里山の自然、里山の風景、里山の文化に触れ親しみながら、里山保全につながる活動を行なうことである。

守る会では、これらの活動を『里山保全活動』『特別活動』と呼び、互いに補充しながら活動を盛り上げ、楽しい時間を共有し、それぞれの人生を謳歌している。

◇特別活動について◇



『特別活動』には、四季のイベント(注)開催と、茨木市農業祭への参画がある。これらは、守る会が発足した平成18年から毎年行なわれており、会員相互の親睦と、一年間の活動成果を公開する場として定着している。これからも色々なアイデアを出し合って続けていきたい活動である。

このほかの特別活動として、企業、団体、学校などの環境活動や自然体験活動等の支援に取り組んでいる。

また、共に活動する仲間たちに刺激を与えるべく学習会にも取り組んでいる。

前期は、6月開催の茨木市民講座を紹介し、天保好博さん「茨木市北部の環境林整備」、吉良七郎さん「自然工作」の講座を受

講した。知識を一つ深めたことになる。初の宿泊企画として、11月開催が決まった「奥大山自然観察会」には、23名の応募があった。紅葉した壮大なブナ林ウォッチングが待ち遠しい。

今後さらに、活動メニューを充実させ、楽しい特別活動を目指したい。

(注) 四季のイベント 新年豚汁会・親子夏の工作教室・新人歓迎会・年末餅つき大会。

◇JICA大阪

間伐体験支援について◇



青年海外協力隊の派遣前訓練は、これまで福島県二本松市で行なわれているが、東日本大震災の影響で、茨木市の国際協力機構(JICA)大阪国際センターで行なわれている。6月に、訓練の一環としての間伐体験支援の要請を茨木市より受け、事前打合せ、現地下見をそれぞれ1回ずつ行ない、世界各国へ飛び立つ若者たち51名(延べ人数、以下同じ)に対し、

守る会スタッフ48名で7月と8月に各1日の竹林整備を指導した。今夏の猛暑を乗り切れたのは、この交流を通じて、威勢のいい若者たちからもらった「元氣」のおかげ



かもしれない。来年度は、この新鮮な体験を生かした新企画を定着させたい。(太田仁)

「里山」からの安全対策

ヒヤリハット第1号

(H18年4月17日)

竹林で中折れの竹を伐採中、その竹が頭に落下し、Kさんが頭皮を擦りむいた。



1. 守る会のヒヤリハット分析

H18年4月から今年の7月までに累計59件が記録されている。その内容を分析すると、(複数理由により75件)約7割が人為的ミスであり改善の余地が充分にある。

内容	件数
服装、装備の不備	7
手順の間違い、決め事不履行	26
近接作業	9
連絡、声掛け不足	8
小計	50
危険生物(ハチ、マムシ他)	7
負傷(骨折、切創、捻挫等)	10
動力機械関係	8
合計	75

活動フィールド	件数
天然林	30
竹林	16
その他(仮植場、道作り作業他)	13
合計	59

①狭い竹林が大勢入りすぎ。状態に有る。右記のヒヤリハット原因をつぶしていけば守る会の安全は確保されるのか? ↓活動内容が変わりつつある。

2. 守る会活動内容の変遷

- ①H18年～H20年 小径木伐採、共有竹林整備 手ノコでの天然林、竹林の整備活動
 - ②H21年～H22年 中径木伐採、個人地主の竹林整備
 - ③H23年～ 大径木伐採、市民保全活動本格参入 動力機械の本格導入(チェーンソー・刈払機)および、炭材、ホダギ、ヒノキ等有用材の伐採活動
- 以上のように発足当時から活動内容も相当変化してきている。
- ①定例や通常活動での個々人の安全対策
 - ②特殊作業時(用材確保、ルート開拓の伐開作業等)の動力機械使用時の技術レベルの向上と安全対策
 - ③一般市民(シニア自然大学等)の森林保全体験時の指導ノウハウの構築
- 以上のように、守る会の活動が「広範囲」でかつ技術力を要求されるレベルになってきている。この為、今後次の事が必要になる。
- ①守る会個々人の安全に対する最低限度のルール徹底と知識の習得。
 - ②組織として守る会の活動内容、方向のコントロール及び安全面での判断能力、技術力の備わったリーダーの育成
 - ③右記を徹底するための研修や育成のための具体的な方策を講じること。

(佐野毅)

「里山サポートネット・茨木」の活動内容

里山サポートネット・茨木(以下ネット茨木と略記)が設立されたのは、平成18年7月で、守る会の設立と同時期です。三年前に茨木市の指定管理事業者の認定を受けています。一期はこの3月に終了し、この4月から二期の認定を受けています。認定期間は三年間で、この間に毎年市から提示される事業計画から外れることはできません。ネット茨木の規定で、目的は『茨木里山センターの活用拡大と地域の「茨木ふれあい森」その他の里山里地保全活動の拡大を推進し、もって市民の里山里地や森林に対する理解と認識を深め、市民参加型の里山里地保全の推進を図ること』とあります。

ネット茨木の活動

ネット茨木は、次の2事業を実施している。

- (1) 里山センター管理運営事業
- (2) 里山里地保全活動事業

(1)の事業は、具体的には多岐にわたりますが、主旨は里山センターが管理する設備(裏山・会議室・工作室・道具類)を市民に利用させたり、またこれらを活用してイベントを自ら企画し、市民や団体を指導することです。また小学生やその他団体の要望を聞き、活動の一部を支援することもあります。市が立てた計画には、予算がつかず、四季のイベントの中の「親子夏の工作教室」は、守る会が担当しています。

豆知識 ソノコはどんな木?



(モチノキ科モチノキ属) 関東以西に分布する常緑の高木で、同じ仲間のモチノキ、クログナモチと共に赤い実をつけ、庭木として人気がある。ただし雌雄異株のため雌木にだけ実がつく。ソノコは、果柄が長く、実はまばらに付き、小さなサクラノボのようだがかわいい。根は浅いが、葉の表皮が丈夫なため乾燥に強く、千塚寺地区に多く分布。浅い根のため風に倒れ易く、高木になりにくい。(小川卓)

編集後記

爽やかな季節になりました。大勢の方々の尽力と加勢があり、発刊に漕ぎ着けることができました。会員が待ち望み楽しく豊かな紙面を目指し、好奇心を持って一つずつ前へ。(小泉美智子)

(編集委員) 板倉百合・井上真弓・宇佐文哲・小川恵子・小川卓・佐野毅・小泉美智子・田中進・西脇滋・松原健男・三浦謙